

YMS-07B-0 PROTOTYPE GOUF (TACTICAL DEMONSTRATOR)

YMS-07B-0 プロトタイプグフ 戦術実証機

U.C.0082年、アナハイム・エレクトロニクス社(AE社)は、傑作機MS-06 ザクIIを開発したことで知られるジオニック社を吸収合併した。AE社はサイド3にあるジオニック社施設に調査団を派遣した際に、モビルスーツに関する膨大な開発資料および実験データを手に入れている。だが、いまだ手が付けられないまま倉庫に眠っている資料も多いという。AE社はモビルスーツ開発史の編纂計画を立ち上げ、自社、他社を問わず過去の資料や文献を研究するセクションを設立。調査を開始した。当時「ダーク・コロニー」と呼ばれていたエキストラ・ランチで収集された資料がある。その中で、プロトタイプグフに関する極めて興味深い映像記録が発見されている。「この映像は、プロトタイプグフとガンタンク初期型の模擬戦を記録したものです。両腕の装備から戦術実証機であることが確認できます。戦術実証機のテストパイロットを務めたのは、皆さんもよくご存じのランパラル氏でした。」ジオニック社でモビルスーツの開発に携わっていたという技師はそう語っている。コロニー内の研究施設であろうか。映像にはグフタイプらしき青いモビルスーツがヒートロッドをしならせ、ガンタンク初期型を電撃で行動不能にしたときの様子が映っている。「ラル氏は、地球で「木馬」追討の任に就く際に、YMS-07B グフを受領していました。ラル氏は初出撃にもかかわらず、連邦の「白いモビルスーツ」を相手に性能以上の戦いぶりを見せているのです。それは連邦側の戦闘記録でも確認できます。」技師の証言どおり、ランパラルが戦術実証機で、すでにグフの操縦に習熟していたとするならば、グフが初戦でスペック以上の性能を発揮したことへの説明はつくことになる。この仮説を裏付けるものは戦術実証機の映像記録と技師の証言のみで、追加調査の報告が待たれている。



※画像はイメージです。

© 創通・サンライズ

HG
GUNDAM THE ORIGIN
1/144 SCALE

機動戦士ガンダム THE ORIGIN MSD
MOBILE SUIT DISCOVERY

GUNDAM.INFO Search
www.gundam.info
バンダイホビーサイト | www.bandai-hobby.net/
Any fees accrued by your access method and connection to the website are your own responsibility.
ホームページのアクセスする際の通信料等はお客様ののご負担となります。

GIMMICK ギミック **REAR VIEW** リアビュー **FRONT VIEW** フロントビュー



MARKING ①～⑮の番号はマーキングシールの番号です。□ 両腕、両脚または両肩とも同様に貼ります。● 反対側も同様に貼ります。※余ったマーキングシールはお好みで自由にお貼りください。マーキング



COLOR GUIDE ※よりリアルに仕上げたい方は、こちらの基本色をご覧ください。※塗装には、より安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。※カラー配合値は参考値であり、画像とカラーガイドの色は異なる場合があります。

- 本体等ブルー部：
すみれ色(65%)+スカイブルー(35%)
+ホワイト(少量)
- 本体等ダークブルー部：
ブルー(40%)+レッド(25%)
+ブラック(20%) + ホワイト(15%)
- 関節等：
マホガニー(45%) + ホワイト(25%)
+ ブラック(20%) + カーキ(10%)
- 動力パイプ等：
グレー(80%) + ブラック(20%)
- バックパック等：
ブルーグレー(55%) + すみれ色(25%)
+ グレー(20%)
- ヒートホーク 柄部：
グレー(65%) + ブラック(30%)
+ ブルー(5%)
- ヒートホーク 刃部：
グレー(50%) + すみれ色(35%)
+ みず色(15%)

●ここに掲載している情報は2015年9月現在のものです。



YMS-07B-0 PROTOTYPE GOUF (TACTICAL DEMONSTRATOR)
PRINCIPALITY OF ZEON PROTOTYPE MOBILE SUIT
HG 1/144 「プロトタイプグフ 戦術実証機」

●画像の完成品は塗装済みです。 ●この商品には、HG 1/144「プロトタイプグフ 戦術実証機」が1体のみ入っています。
●画像と商品とは多少異なりますのでご了承ください。

BANDAI 2015 MADE IN JAPAN

0200640



警告(けいこく)

保護者の方へ 必ずお読みください。

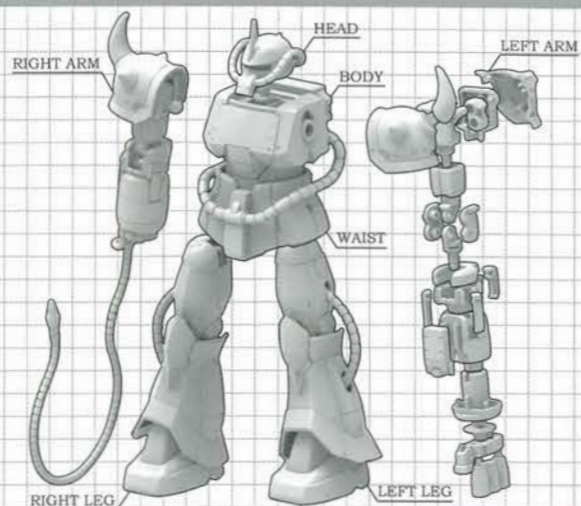
- 小部品があります。誤飲・窒息の危険がありますので、3才未満のお子様には絶対に与えないでください。

注意(ちゅうい)

- 縁部が鋭い箇所がありますので、注意してください。
- 先端が尖っている箇所がありますので、注意してください。
- 部品はきれいに切り取り、切り取ったあとのクズは捨ててください。
- 袋を頭からかぶったり、顔を覆ったりしないでください。窒息する恐れがあります。

《組み立てる時の注意》

- 組み立てる前に説明書をよく読みましょう。
- 部品は番号を確かめ、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。
- 塗装にはより安全な「水性塗料」のご使用をおすすめします。



PARTS LIST

※×印は使用しないパーツです。

A1パーツ (スチロール樹脂:PS)	A2パーツ (スチロール樹脂:PS)	B1パーツ (スチロール樹脂:PS)	B2パーツ (スチロール樹脂:PS)	D1パーツ (スチロール樹脂:PS)	D2パーツ (スチロール樹脂:PS)
C1パーツ (スチロール樹脂:PS)	C2パーツ (スチロール樹脂:PS)	Eパーツ (スチロール樹脂:PS)	Gパーツ (スチロール樹脂:PS)	PC-001パーツ (ポリエチレン:PE)	

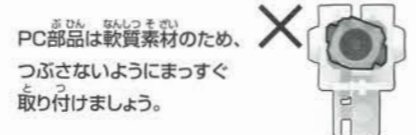
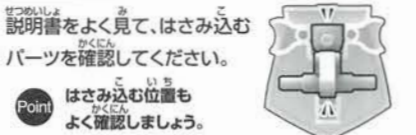
ホイルシール………1
マーキングシール………1

※クリアパーツの中には、製造工程上気泡が入っているものがありますがご了承ください。

各部品は、ニッパーなどできれいに切り取りましょう。

はさみ込むパーツの入れ忘れに注意!

ポリキャップのすれ、曲がり注意!



※組立図中に登場するアイコンは欄外に説明があります。

BODY

E7 **E6** **D1 22** **D1 23** **B2 23** **B2 24** **B2 20** **1** **2** **じゆん** **の順に** **組み立てます。** **PC 4** **2** **E8** **1** **PC 4** **E9**

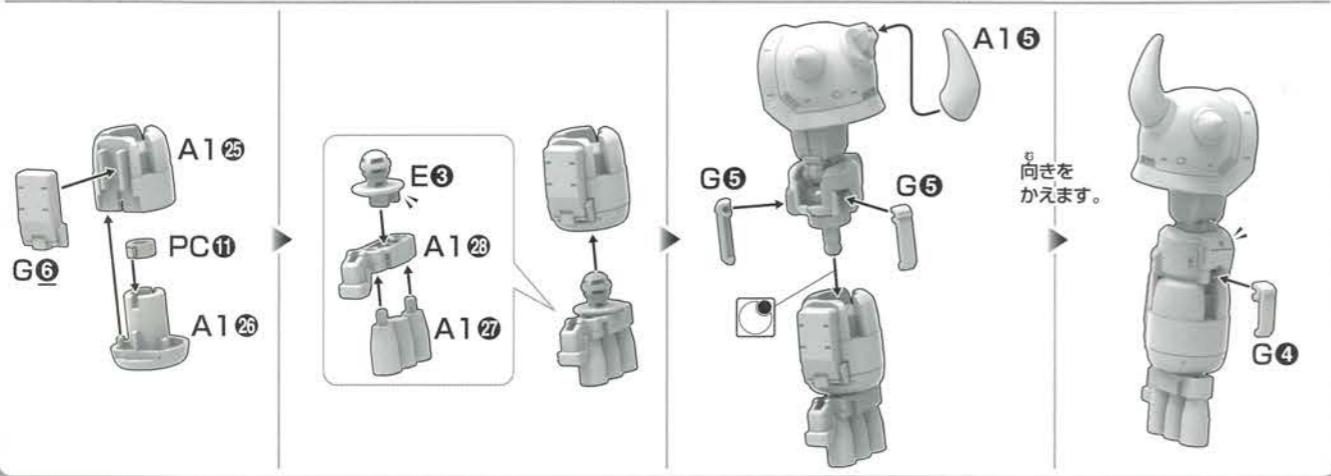
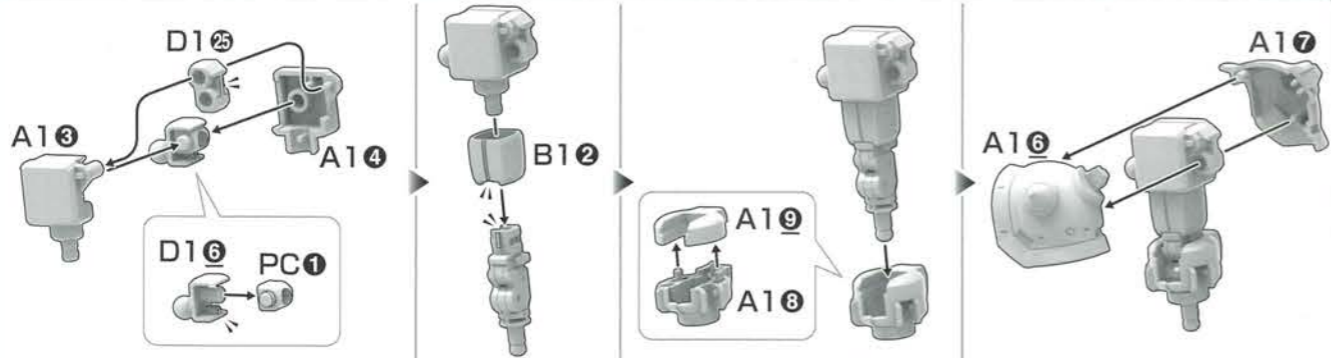
C2 6 **PC 8** **D1 21** **A1 17** **B2 21** **B2 22** **G 8** **G 7**

G 10 **22** **マーキングシール** **21** **マーキングシール** **WAIST** **B2 7** **PC 8** **1** **E10** **2** **B2 6**

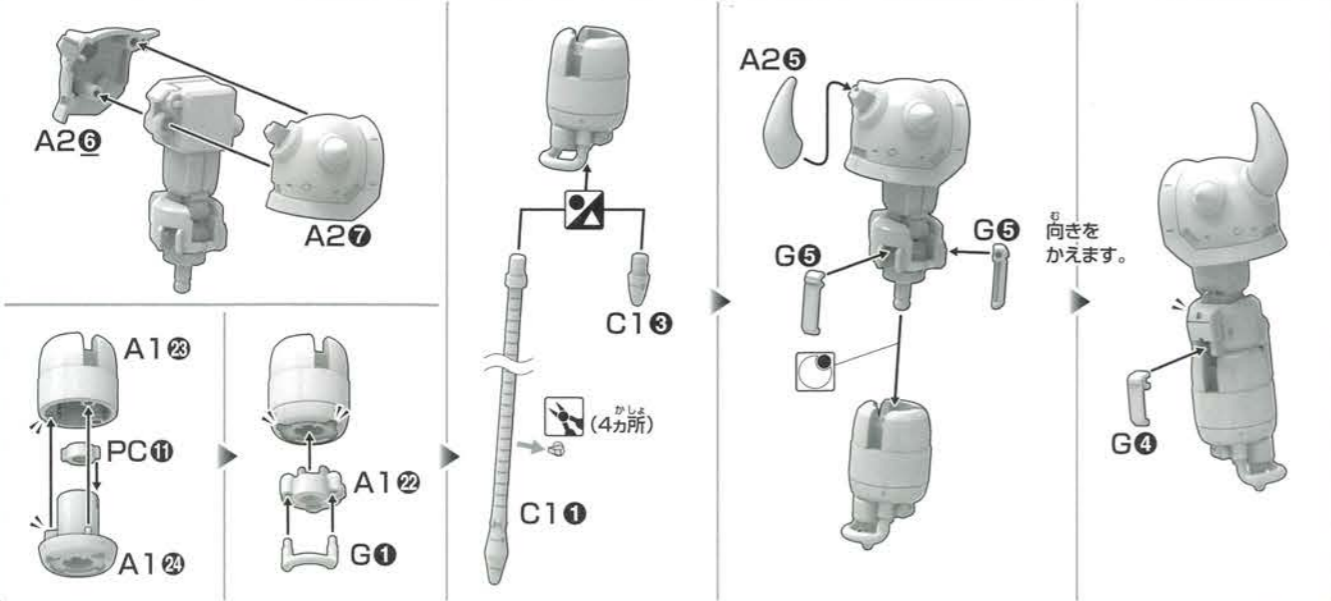
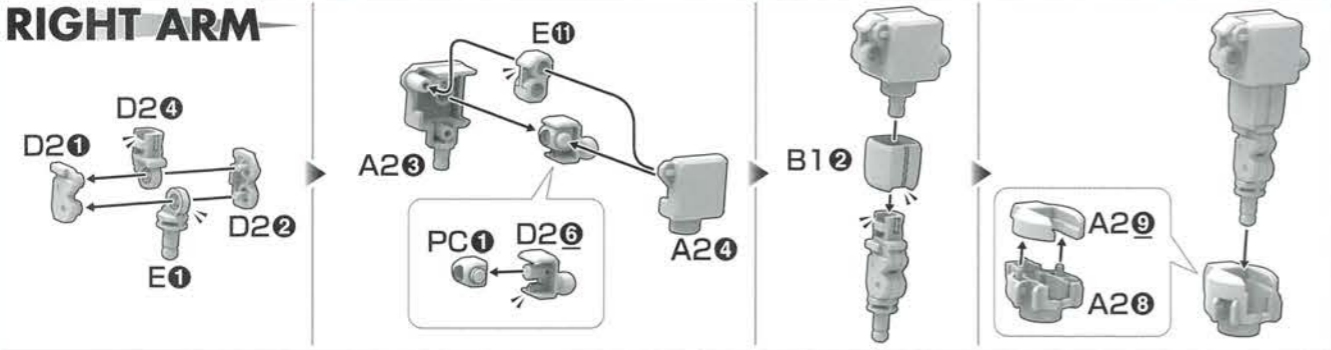
B2 13 **PC 2** **B2 11** **PC 2** **B2 12** **B2 10**

C1 2 **2** **B2 9** **1** **B2 19**

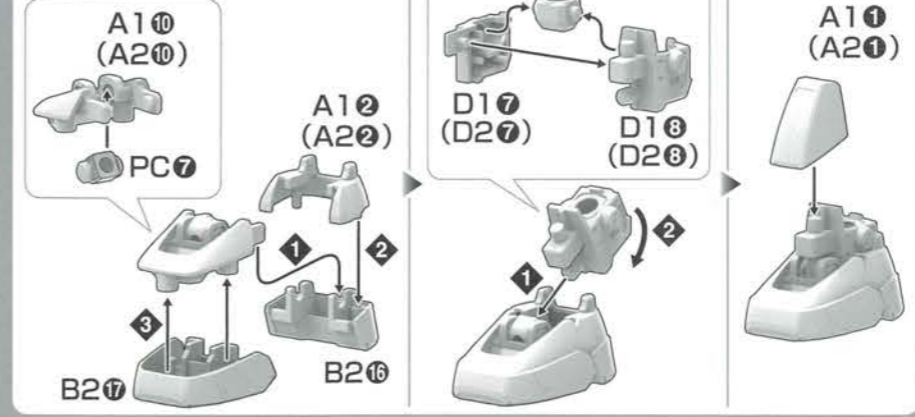
HEAD **A1 15** **36** **マーキングシール** **1** **シール** **モノアイの可動** **※ここを動かします。** **2** **A1 19** **C1 4** **A1 21** **A1 18** **LEFT ARM** **D1 4** **D1 2** **D1 1** **E 1**



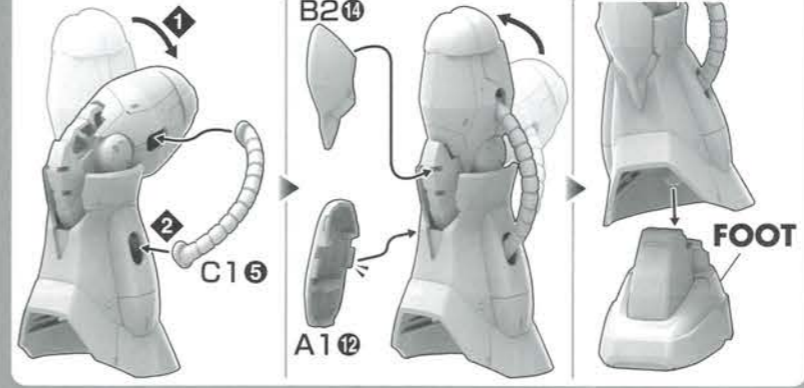
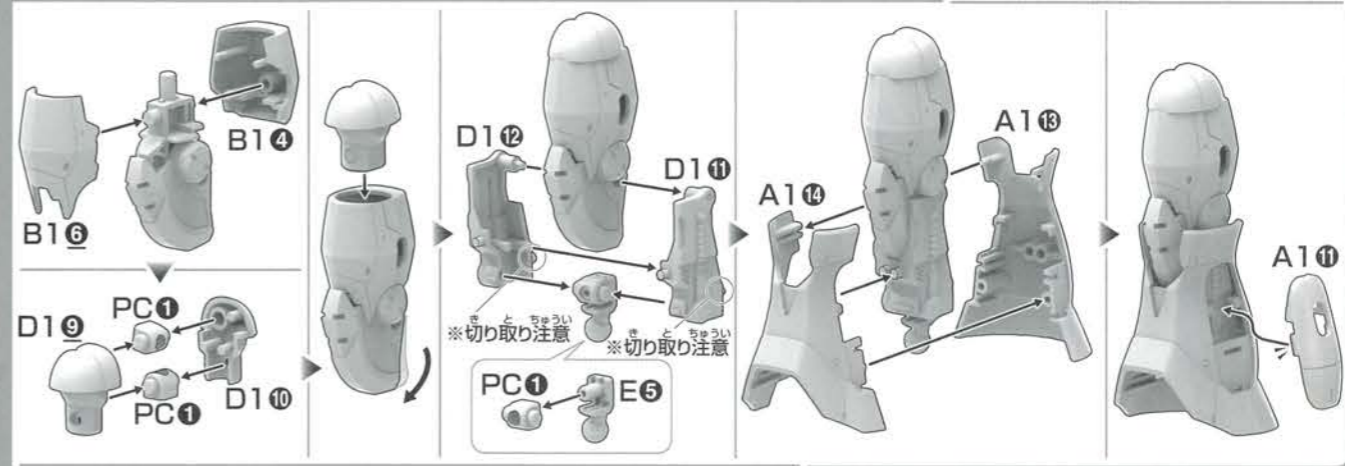
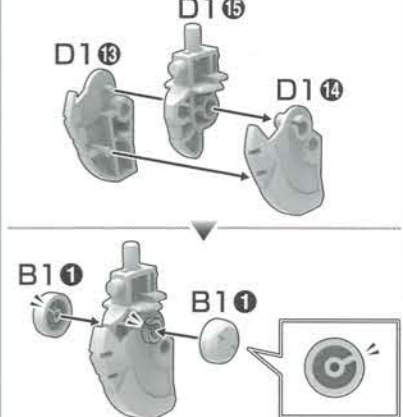
RIGHT ARM



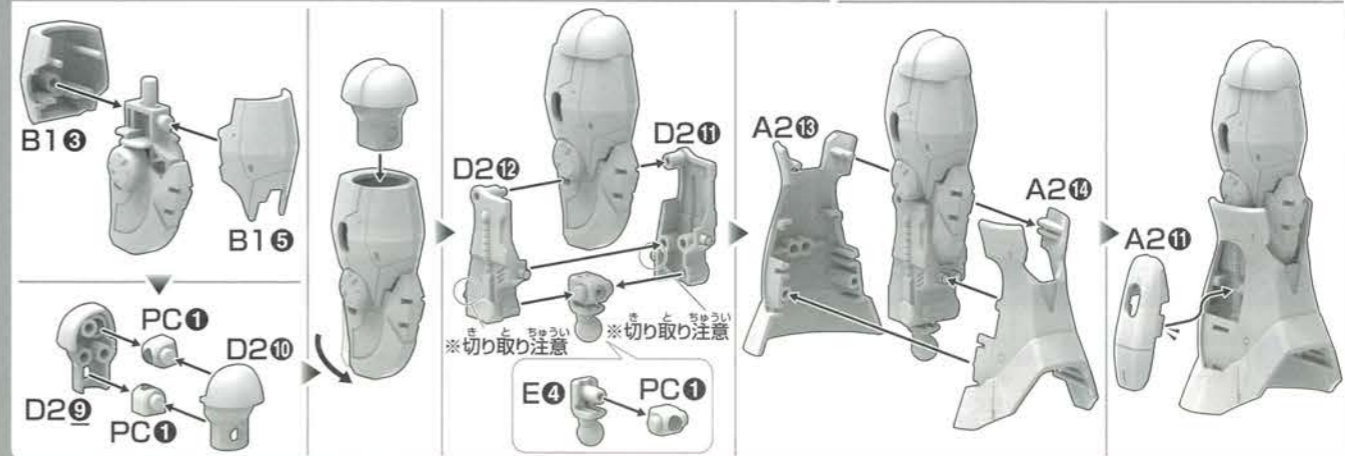
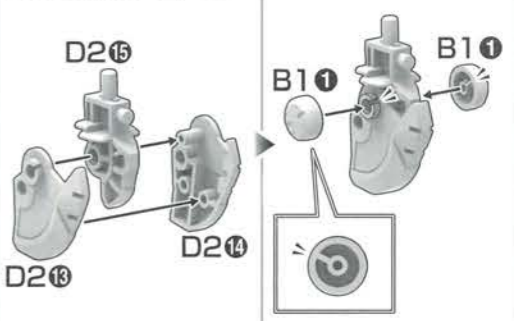
FOOT x2



LEFT LEG



RIGHT LEG



YMS-07B-0 PROTOTYPE GOUF (TACTICAL DEMONSTRATOR) プロトタイプグフ 戦術実証機

汎用性の高いMS-06Fから、陸戦仕様MS-06Jやそのほか局地戦仕様が生みだされていったが、母体となるMS-06の機体性能では限界があることを、ジオン公国軍は早期段階で把握していた。地球進攻においてもモビルスーツが重要な役割を担うことを期待していたジオン軍は、ジオニック社へ陸戦用に特化した新たなモビルスーツを試作発注する。YMS-07の型式番号が与えられたこの試作モビルスーツは、MS-06Fをベースにした装甲から、冷却装置、推進装置、コックピットのレイアウトに至るまで、全面的に刷新が図られていた。YMS-07には固定武装の増強も併せて求められており、機動テスト用のYMS-07A-0とは別に新型の固定武装をテストする戦術実証機、YMS-07B-0も製作された。機動実証機と戦術実証機の違いは前腕にある。機動実証機はMS-06のパーツが転用されており、戦術実証機はモビルワーカー MW-01 01式 後期型と同規格のアタッチメントが採用されている。右腕に試作型ヒート・ロッド、左腕に三連装マシンガンを着装し、内蔵型固定武装の試験が行われた。また、戦術実証機のテストパイロットとして「青い巨星」の異名で

知られるランバ・ラルが参加していたという説がある。彼はモビルワーカーの開発に参加していたことが記録に残っている。彼が担当した機体は「青」で塗装され、識別番号は「31」であった。その2つが戦術実証機にも確認できたことが説の根拠であるが、それ以外に確たる証拠は示されていない。機動実証機と戦術実証機の性能は、ジオニック社およびジオン軍の要望を満たすものであったため、2機のデータを元にMS-07B グフが誕生することになった。

YMS-07A-0 PROTOTYPE GOUF (MOBILITY DEMONSTRATOR)

YMS-07A-0はプロトタイプグフの機動実証機で、機体の駆動・動力系をテストする目的で製作された。前腕部とマニピュレーターがザク・タイプで、マシンガンやヒート・ホークなどMS用の武器を装備できる。YMS-07A-0はジオン国内の「ダーク・コロニー」での試験後、地球に降ろされ、重力下での最終機動試験が行われた。カラーリングがカーキと白の機体のほかにも、青と白の機体も存在していたようだ。

試作型ヒート・ロッド

地上での近接戦闘を想定した武器。前腕からスネークチェーン状のロッドを射出して、ムチのように敵を捕縛したり、電撃によって電子機器にダメージを与えることができる。先端は開閉し、爪で敵機の関節部などを捉えることもできる。

ランドセル

MS-06Fのランドセルから重力下仕様に変更され、ノズルが2基から3基に変更されている。試作型ゆえか内部の機器が突き出しになった部分も見受けられる。



シールド
MS-06ザクIIではシールドは肩に取り付けられていたが、YMS-07では前腕部への装着が検討された。自在に動かせることで防御範囲が広がり機体への被弾率を下げるのに有効であった。また、各種武器を裏面のマウントラッチに装備できる。

マニピュレーター (MW-01 01式 後期型)

試作型ヒート・ロッドは前腕内部にあるリール型の装置に巻き取られるように格納されている。モジュール化されたYMS-07B-0の前腕部は、モビルワーカー MW-01 01式 後期型とアタッチメントが同規格で、MW-01 01式 後期型のマニピュレーターも装着できる。



ヒート・ホーク

斧型の斬撃武器。ブレード部分が赤熱化し、高熱によって敵機の装甲を溶断する。腰のウェポン・ラッチやシールドに装着する際は、グリップ部分がスライドしてコンパクトになる。



三連装マシンガン

左前腕部に内蔵された実弾方式の兵器。三連装の砲身に並んでセンサーがあり、マガジンは前腕に装着される。制式採用されたMS-07Bグフの内蔵型マシンガンは五連装となっている。

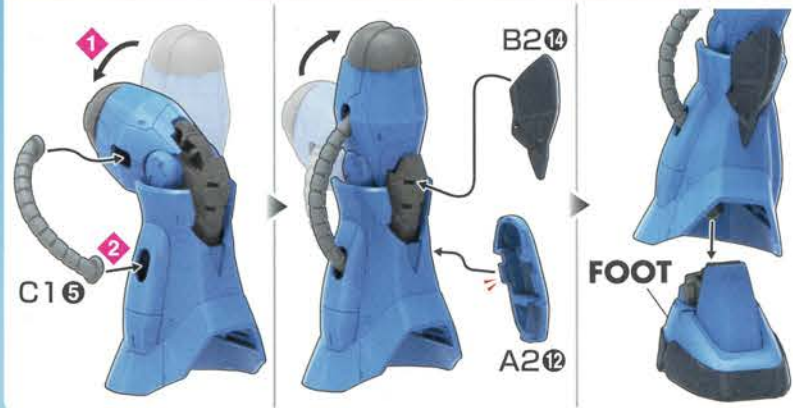
SPEC

型式番号: YMS-07B-0
全高: 18.3m
武装: 三連装マシンガン/試作型ヒート・ロッド
ヒート・ホーク/シールド

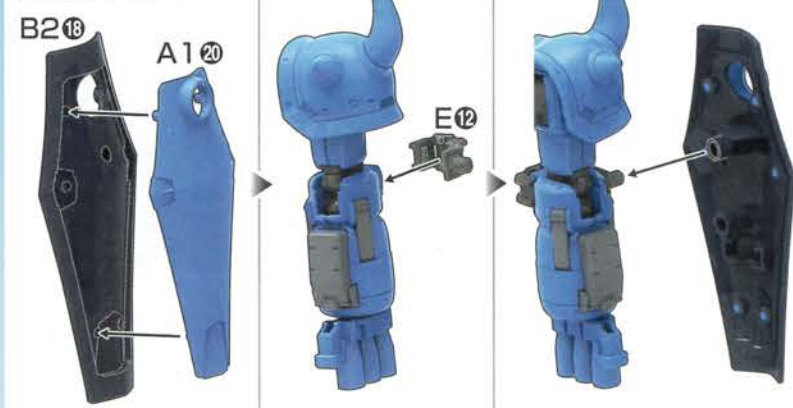
※データは劇中の設定です。

ランバ・ラル

青の機体カラーから、YMS-07B-0のテストパイロットはランバ・ラルだったのではないかと推測されている。ザビ家との政争に敗れたラル家の嫡男であったランバは、一時期悪意だったダイクン家の兄妹と実父ジンバを地球へ逃がしたのちムンゾ防衛隊を離れるが、ザビ家の三男ドズル(当時・大佐)から請われ、モビルワーカーの開発に参加する。その経歴から他の試作モビルスーツのテストパイロットも務めていたのかも知れない。

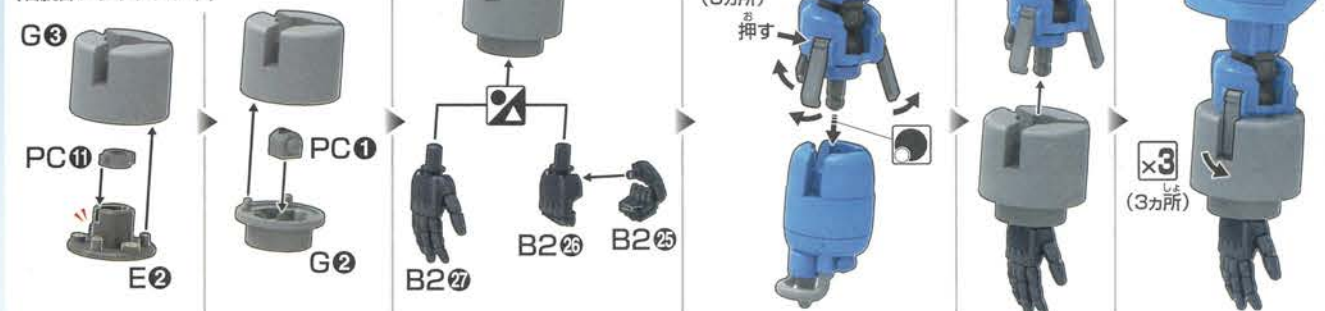


SHIELD



GIMMICK

(右腕部アタッチメント)



HEAT HAWK

(ヒート・ホーク)

